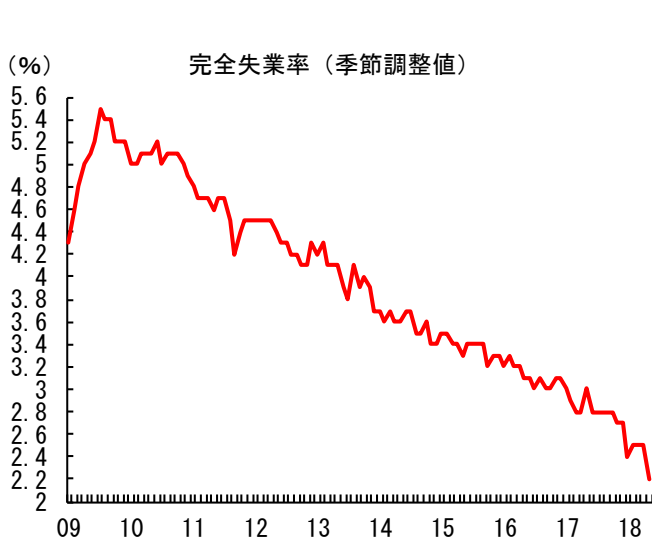


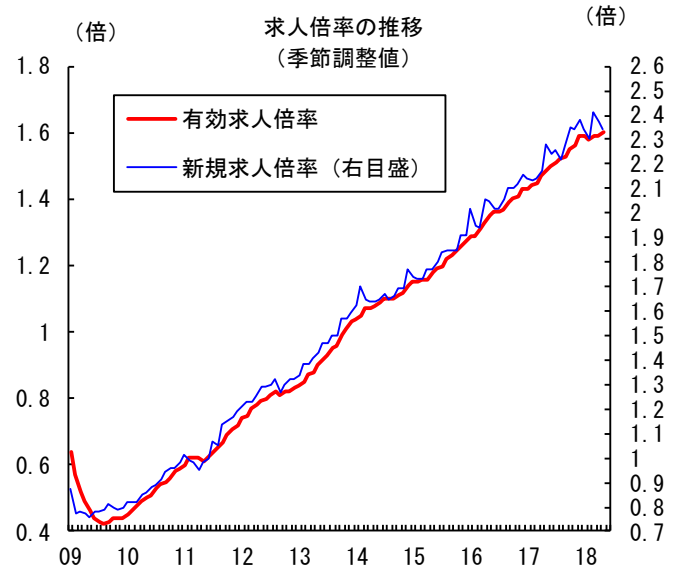
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2018年5月） 発表日：2018年6月29日（金）
 ～失業率は2.2%へと急低下の一方、新規求人数の増加ペースは鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は急低下も、割り引いてみる必要あり

総務省から発表された2018年5月の完全失業率は2.2%と、前月から0.3ポイントの低下となった（市場予想：2.5%）。これは1992年10月以来の低水準である。ただ、今月の失業率急低下は労働市場からの退出が多かった（労働参加率が低下）ことによる面が大きい。季節調整済みの就業者数、雇用者数とも前月から減少（ともに前月差▲20万人）しており、前月から雇用情勢が急激に改善したというわけではない。失業率2.2%という数字はかなりのサプライズだったが、割り引いてみる必要があるだろう。来月分では失業率は上昇する可能性が高いと予想する。

ただ、見かけ上強く出過ぎているとはいえ、失業率は均してみても極めて低水準であることは間違いない。また、就業者数や雇用者数についても、前月からは減少しているが、ここ数ヶ月の増加ペースが異常だっただけに、多少のスピード調整があるのは自然だろう。就業者数、雇用者数は明確な増加傾向にあり、雇用情勢が極めて良好であることは疑いない。

また、前年比でみると、5月の雇用者数は前年比+2.3%となった。4月の+2.8%からは鈍化しているが、引き続き+2%台の高い伸びである。16年～17年にかけては+1%台前半で推移することが多かったが、18年2月以降は+2%台となり、増加ペースが加速している。内訳をみると、18年1～3月は、正規職員は前年比+1%台前半での推移が続くなか、パートやアルバイトといった非正規職員の雇用が急増し、雇用を牽引していたが、4、5月は非正規職員の伸びが鈍化（3月：前年比+5.7% → 4月：+5.0% → 5月：+3.8%）する一方で、正規職員の雇用が伸びを高めている（3月：前年比+1.2% → 4月：+2.0% → 5月：+2.2%）。単に雇用者数が増加傾向にあるだけでなく、内容も良好である。

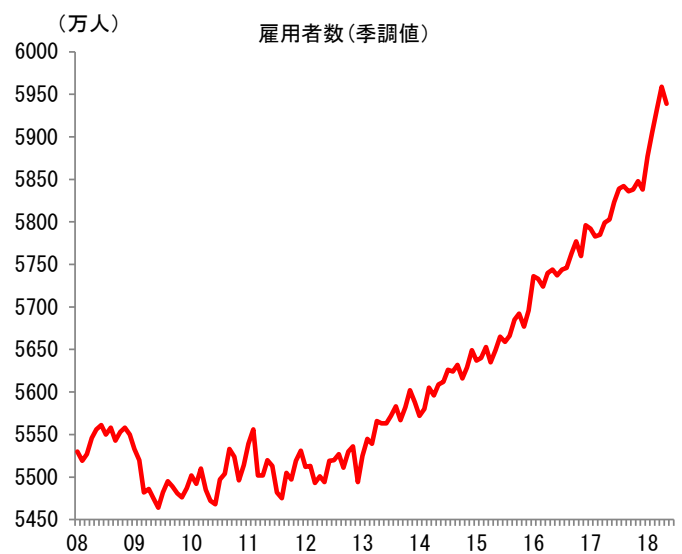
○ 新規求人数の増勢が鈍化

厚生労働省から公表された18年5月の有効求人倍率は1.60倍と前月から0.01ポイントの改善、新規求人倍率は2.34倍と、前月から0.03ポイントの低下となった。引き続きかなりの高水準にあり、労働需給が引き締まっていることが示されている。

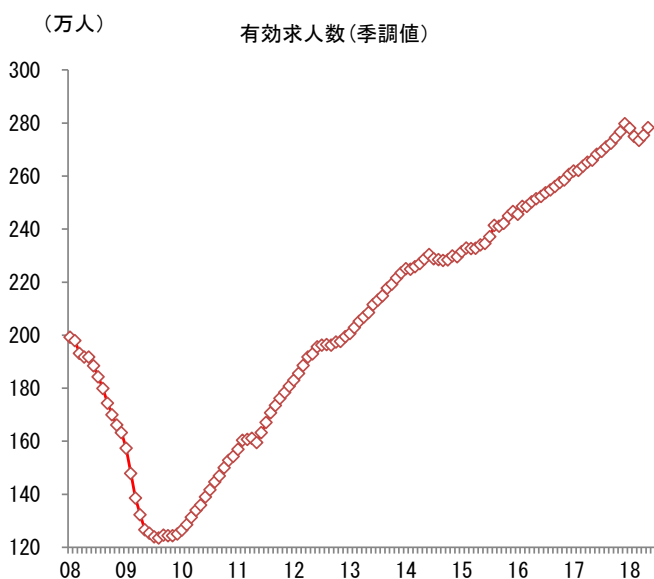
また、有効求人数は前月比+1.1%（4月+0.7%）、新規求人数は前月比▲2.8%（4月+0.4%）となった。新規求人数は1月に急減した後、3ヶ月連続で増加していたが、4月は再び減少している。4-5月平均の新規求人数は1-3月期を1.9%Pt上回っているものの、1-3月期に前期比▲2.9%と落ち込んだ分は取り戻せていない。均してみれば増加基調という判断で良いと思われるが、増勢はやや弱まっているようにも見える。前述のとおり雇用者数は現在非常に好調な推移を続けているが、先行指標である新規求人数の増加ペースが鈍化していることは気にかかる。今後の動向に注意しておきたい。



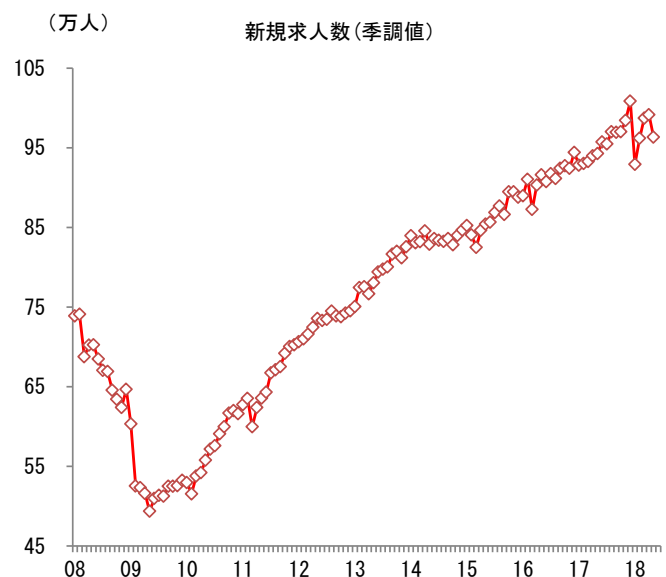
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」